

「これからの公衆衛生活動に必要な遺伝医学の基礎知識」

福 嶋 義 光

現在、急速に遺伝子の研究が進んでおり、どんな病気になりやすいか、それを防ぐためにはどのような生活環境がふさわしいか、どの薬が効いてどの薬が副作用が強く出るかなど、一人ひとりの遺伝子情報を調べて、個別対応のオーダーメイド医療を行うことができる時代が到来すると予測されている。

従来、遺伝の問題は、特別な人たちだけの問題で、自分には関係がないと思っている方が多かったが、遺伝子の情報(ゲノム情報)は特別な家系の人だけに関係する問題ではなく、すべての人に関係する問題である。遺伝子情報(ゲノム情報)は一生変化せず、血縁者も関与している可能性のある情報であることから、扱う際には十分な配慮が必要である。日本では正しい遺伝教育がされてこなかったために、遺伝への誤解があり、遺伝子情報によって個人が差別される可能性がある。結婚や就職の際などに差別されるような社会であれば、遺伝子情報を医療に生かしていくことが難しくなり、せっかくの夢のオーダーメイド医療・予防の恩恵を受けることができなくなる可能性がある。遺伝子情報により区別はするが、差別はしない社会を構築するためには、初等・中等・高等教育および社会教育を通じ、あらゆる場面で遺伝教育を充実させていく必要がある。

信州大学では GENETOPIA <<http://genetopia.md.shinshu-u.ac.jp/>> (遺伝子の情報をもたらすユートピアという意味がこめられている) という名前のHPを開設し、遺伝に関する有用な情報を掲載している。